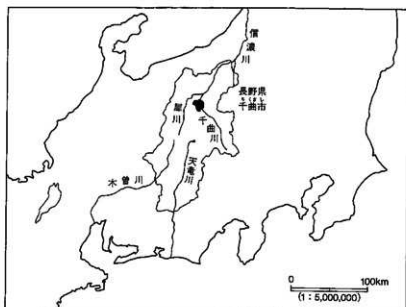


平成15・16年度

千曲市埋蔵文化財調査報告書

2006

長野県千曲市教育委員会



千曲市の位置

例言

- 1 本書は、千曲市教育委員会が実施した、平成15年度及び平成16年度の埋蔵文化財調査報告書である。
- 2 調査は千曲市教育委員会生涯学習課が主体となって実施し、職員が担当して行った。

千曲市教育委員会事務局

教育長 下崎文義 (平成15年度)
安西嗣宣 (平成16年度)
教育部長 高橋芳男 (平成15年度)
西沢秀文 (平成16年度)

生涯学習課長 烏谷正行
文化財係長 矢島宏雄
文化財係 小野紀男・寺島孝典
森将軍塚古墳館学芸係長 佐藤信之

- 3 五量塚古墳及び堂平大塚古墳、杉山古墳群の執筆については佐藤が、その他の遺跡の執筆と本書編集は寺島が行った。
- 4 本書掲載の発掘調査のうち、規模の大きな調査については、本書とは別に発掘調査報告書を刊行している。
- 5 本書は、発掘調査の概要報告に主眼を置き、試掘調査及び立会調査については紙数の都合上一覧表の掲載のみとした。

- 6 各遺跡の調査によって出土した遺物のほか、実測図・写真等調査に係るすべての資料は、千曲市教育委員会が保管している。なお、資料は各遺跡に付した遺跡記号を記して保管されている。

目次

例言・目次

埋蔵文化財調査概要	1
平成15年度埋蔵文化財調査一覧	2
平成16年度埋蔵文化財調査一覧	2
発掘調査	6
(1) 八幡遺跡群六反田遺跡	6
(2) 五量塚古墳・堂平大塚古墳	15
(3) 更埴条里水田址七ツ石地点	17
(4) 町裏遺跡	18
(5) 屋代遺跡群荒井遺跡	19
(6) 杉山古墳群	20
(7) 東條遺跡	22
(8) 粟佐遺跡群琵琶島遺跡	23
(9) 粟佐遺跡群宮裏遺跡	24
報告書抄録	

埋蔵文化財調査概要

【平成15年度】

平成15年度については、更埴市及び埴科郡戸倉町、更級郡上山田町の1市2町が合併し、新たに誕生した千曲市において平成15年9月1日以降に実施した埋蔵文化財調査の概要である。

長引く経済不況の煽りから開発事業は専ら小規模なものが大半を占め、発掘調査を実施するまでにいたる開発はほとんどないのが現状である。

発掘調査実施件数は4件で、このうち3件は公共事業が調査原因となるものである。

公共事業に伴う発掘調査は、道路改良工事に伴うものが2件（千曲建設事務所1件・千曲市建設課1件）と防火水槽建設工事に伴うものが1件（千曲市消防防災課）であり、2件の道路改良工事は複数年次にわたる継続事業となるものである。

試掘調査実施件数は4件で、民間事業、公共事業がそれぞれ2件ずつである。

民間事業は店舗建設と工場建設であり、試掘調査の際いずれも埋蔵文化財を確認しているが、盛土等により遺跡が保護されることから発掘調査の対象とはしていない。一方、公共事業については、遺跡の有無を判断するための試掘調査であり、それぞれ埋蔵文化財が確認されたため町裏遺跡については今年度から、栗佐遺跡群琵琶島遺跡については来年度から発掘調査を実施することとなった。

立会調査実施件数は18件で、このうち民間による開発が3件を数え、残りの15件については公共事業に伴うものである。

また、範囲確認調査を主たる目的とした学術発掘は、教育委員会生涯学習課（森將軍塚古墳館）により、五量隈塚古墳と堂平大塚古墳の調査を実施した。

【平成16年度】

平成16年度の発掘調査実施件数は7件を数え、そのうち5件が公共事業によるもので、すべて道路改良工事関連（千曲建設事務所3件・千曲市建設課2件）の調査となる。このほか、1件は民間の工場建設、もう1件は学術発掘によるものである。

栗佐遺跡群琵琶島遺跡は昨年度試掘調査を実施し、平安時代の遺物包含層が確認されているため、今年度から発掘調査を実施することとなった。

道路改良は現道の両側を歩道も含め拡幅するものであるが、現在、沿線には多くの家屋が建ち並び、長い距離の拡幅となるため半年度での事業は不可能なことから複数年にわたる事業となり、家屋移転が済み用地買収が終了し、ある程度の面積が確保できた段階で調査を行うものとなった。

試掘調査5件はすべて民間開発によるもので、工場建設に伴うものが2件、集合住宅建設に伴うものが2件、携帯電話基地局建設に伴うものが1件である。

立会調査実施件数は39件を数え、このうち民間開発によるものは2件で、残りは公共事業に伴うものである。

10月下旬の台風23号被害による道路や河川の改修・復旧工事関連の立会調査が多く、公共事業での立会調査件数37件中、14件が災害に伴う復旧工事によるものである。

また今年度から杉山古墳群の範囲確認調査を実施した。積石塚の調査、石室調査などを行い、来年度以降も調査を継続する予定である。

平成15年度 埋蔵文化財調査一覧

番号	遺跡名	所在地	調査原因	原因者	調査期間	調査面積	備考
発掘調査							
15-1	五章塚古墳、堂平大塚古墳	土 口	学術=範囲確認調査	千曲市(森将軍塚古墳館)	15.8.26~15.9.13	100㎡	
15-2	更埴糸里水田址七ツ石地点	歴 代	公共=道路改良	千曲建設事務所	15.11.4~15.12.9	550㎡	
15-3	八勝遺跡群六反田遺跡	八 幡	公共=防火水槽建設	千曲市(消防防災課)	16.2.10~16.2.17	30㎡	
15-4	町高遺跡	桑 原	公共=道路改良	千曲市(建設課)	16.3.15~16.3.24	96㎡	
試掘調査					調査日	調査内容・所見	
15-5	粟佐遺跡群北村遺跡	栗 佐	民間=店舗建設	大和ロイヤル㈱	15.10.7	Tr 4箇所	-90cmで遺物包含層検出
15-6	町高遺跡	桑 原	公共=道路改良	千曲市(建設課)	15.10.31	Tr 7箇所	-40cmで遺物包含層検出
15-7	栗佐遺跡群琵琶島遺跡	小 島	公共=道路改良	千曲建設事務所	15.12.3	Tr 2箇所	-40cmで遺物包含層検出
15-8	中島遺跡	俳物師屋	民間=工場建設	森川産業㈱	15.12.12	Tr 4箇所	-160cmで平安水田跡検出
立会調査							
15-9	歴代城跡	小 島	公共=急傾斜地崩落	千曲建設事務所	15.9.16	掘削-80cm	遺構、遺物なし
15-10	大池南遺跡	八 幡	公共=テニスコート造成	千曲市(農林課)	15.9.19	掘削-15cm	遺構、遺物なし
15-11	元町遺跡	稲 荷 山	公共=防火水槽建設	千曲市(消防防災課)	15.9.30	掘削-200cm	遺構、遺物なし
15-12	更埴糸里水田址	歴 代	公共=歩道建設	千曲建設事務所	15.10.2	掘削-45cm	遺構、遺物なし
15-13	倉科水田址	倉 科	公共=公園造成	千曲市(企画課)	15.10.17	掘削なし	
15-14	大境遺跡	歴 代	民間=工場増築	コックフーズ㈱	15.11.10	掘削-70cm	遺構、遺物なし
15-15	町高遺跡群接地	桑 原	公共=道路改良	千曲市(建設課)	15.11.28	掘削-120cm	遺構、遺物なし
15-16	南沖遺跡	坑 瀬 下	公共=プレハブ庁舎建設	千曲市(総務課)	15.12.1	掘削-25cm	遺構、遺物なし
15-17	堂河原遺跡	坑 瀬 下	公共=福祉共同施設建設	千曲建設事務所	15.12.15~16.1.6	掘削-180~250cm	遺構、遺物なし
15-18	更埴糸里水田址	歴 代	民間=診療所建設	個人	15.12.22	掘削-40cm	遺構、遺物なし
15-19	倉科水田址	倉 科	公共=水路改修	千曲建設事務所	16.1.8	掘削-110cm	遺構、遺物なし
15-20	大境遺跡	歴 代	民間=工場増築	コックフーズ㈱	16.1.15	掘削-60cm	遺構、遺物なし
15-21	羽場遺跡	上 山 田	公共=道路改良	千曲建設事務所	16.1.20	掘削-10cm	遺構、遺物なし
15-22	欠口遺跡	桜 堂	公共=駐車場造成	千曲市(教育総務課)	16.2.10	掘削なし	
15-23	栗佐遺跡群南沖遺跡	栗 佐	公共=水路改良	千曲市(都市計画課)	16.2.13	掘削-120cm	遺物包含層確認
15-24	歴代遺跡群南河原遺跡	雨 宮	公共=道路改良	千曲建設事務所	16.2.24	掘削-10cm	遺構、遺物なし
15-25	栗佐遺跡群	歴 代	公共=警備施設建設	千曲市(消防防災課)	16.3.2	掘削-75cm	遺物包含層確認
15-26	瓦城城跡	上 山 田	公共=道路改良	千曲建設事務所	16.3.8	掘削なし	

平成16年度 埋蔵文化財調査一覧

番号	遺跡名	所在地	調査原因	原因者	調査期間	調査面積	備考
発掘調査							
16-1	町高遺跡	桑 原	公共=道路改良	千曲市(建設課)	16.4.12~16.4.30	170㎡	
16-2	歴代遺跡群釈井遺跡	歴 代	民間=工場増築	長野電子工業㈱	16.4.15~16.5.6	80㎡	
16-3	杉山古墳群	倉 科	学術=範囲確認調査	千曲市(森将軍塚古墳館)	16.8.26~16.9.14	100㎡	
16-4	東條遺跡	八 幡	公共=道路建設	千曲市(建設課)	16.9.29~16.11.26	433㎡	
16-5	更埴糸里水田址七ツ石地点	歴 代	公共=道路改良	千曲建設事務所	16.11.9~16.11.14	100㎡	
16-6	栗佐遺跡群琵琶島遺跡	小 島	公共=道路改良	千曲建設事務所	16.12.13~16.12.16	105㎡	
16-7	栗佐遺跡群宮裏遺跡	歴 代	公共=道路改良	千曲建設事務所	16.12.20~16.12.22	32㎡	

試掘調査				調査日	調査内容・所見	
16-8	力石条里遺跡群	上山田	民間=工場増築	朝戸上リネンサプライ	16.4.15	埋蔵文化財なし
16-9	栗佐遺跡群北村裏畑遺跡	栗佐	民間=集合住宅等	個人	16.5.25	Tr1箇所 -110cmで遺物包含層検出
16-10	三島遺跡群	羽尾	民間=工場建設	ヤジマ鋼材㈱	16.6.28	Tr2箇所 -40~55cmで遺物包含層検出
16-11	宮川遺跡	八幡	民間=携帯基地局	朝エヌ・ティ・ティ・ドコモ	16.10.1	埋蔵文化財なし
16-12	板田遺跡	板堂	民間=集合住宅	個人	16.12.10	Tr2箇所 -70cmで時期不明水田跡検出
立会調査						
16-13	栗佐遺跡群南沖遺跡	枕瀬下	公共=駐車場舗装	千曲市(総務課)	16.7.5	掘削なし
16-14	力石条里遺跡群	新山	公共=道路舗装復旧	千曲市(建設課)	16.8.24	掘削なし
16-15	更埴条里水田址	歴代	公共=道路改良	千曲市(建設課)	16.8.30	掘削-70cm 遺構、遺物なし
16-16	三島平遺跡	羽尾	公共=駐車場整備	千曲市(生涯学習課)	16.9.3	掘削なし
16-17	通上池遺跡	森	公共=側溝布設	千曲市(建設課)	16.9.6	掘削-60cm 遺構、遺物なし
16-18	力石条里遺跡群	力石	公共=道路舗装復旧	千曲市(建設課)	16.9.9	掘削なし
16-19	更埴条里水田址	歴代	公共=道路改良	千曲市(建設課)	16.9.14	掘削-10cm 遺構、遺物なし
16-20	歴代遺跡群窪河原遺跡	雨宮	公共=道路舗装復旧	千曲市(建設課)	16.9.22	掘削なし
16-21	歴代遺跡群荒井遺跡	歴代	公共=道路舗装復旧	千曲市(建設課)	16.9.22	掘削なし
16-22	森北山遺跡	森	公共=道路改良	千曲市(建設課)	16.9.27	掘削-15cm 遺構、遺物なし
16-23	仙石遺跡群	羽尾	公共=防火水槽	千曲市(消防防災課)	16.10.1	掘削-200cm 遺構、遺物なし
16-24	土口東遺跡	土口	公共=道路改良	千曲市(建設課)	16.10.4	掘削-60cm 遺構、遺物なし
16-25	力石条里遺跡群	力石	公共=舞臺敷設置	千曲建設事務所	16.11.1	掘削-70cm 遺構、遺物なし
16-26	歴代遺跡群輝津遺跡	歴代	公共=道路舗装復旧	千曲建設事務所	16.11.9	掘削なし
16-27	更埴条里水田址	歴代	公共=道路舗装復旧	千曲建設事務所	16.11.9	掘削なし
16-28	歴代遺跡群大宮遺跡	雨宮	公共=道路舗装復旧	千曲建設事務所	16.11.9	掘削なし
16-29	歴代遺跡群北野遺跡	雨宮	公共=道路舗装復旧	千曲建設事務所	16.11.9	掘削なし
16-30	原ノ前遺跡	上山田	公共=道路舗装復旧	千曲建設事務所	16.11.15	掘削なし
16-31	力石条里遺跡群	力石	公共=道路舗装復旧	千曲建設事務所	16.11.15	掘削なし
16-32	更埴条里水田址	歴代	公共=道路舗装復旧	千曲市(建設課)	16.11.16	掘削なし
16-33	北内川遺跡	内川	公共=道路舗装復旧	千曲市(建設課)	16.11.19	掘削なし
16-34	歴代遺跡群古道遺跡	歴代	公共=道路舗装復旧	千曲市(建設課)	16.11.19	掘削なし
16-35	歴代遺跡群大宮遺跡	雨宮	公共=道路舗装復旧	千曲市(建設課)	16.11.19	掘削なし
16-36	鳥林遺跡	桑原	公共=災害復旧	千曲市(建設課)	16.11.24	掘削なし
16-37	幅田遺跡群門光房遺跡	羽尾	公共=災害復旧	千曲建設事務所	16.11.25	掘削なし
16-38	田中沖遺跡	枕瀬下	公共=道路舗装復旧	千曲市(建設課)	16.12.6	掘削なし
16-39	場林遺跡	新山	公共=道路改良	千曲市(農林課)	16.12.7	掘削-10cm 遺構、遺物なし
16-40	栗佐遺跡群南沖遺跡	栗佐	公共=ガソリントラップ	千曲市(総務課)	16.12.7	掘削-75cm 遺構、遺物なし
16-41	栗佐遺跡群南沖遺跡	栗佐	公共=ガソリントラップ	千曲市(総務課)	16.12.9	掘削-85cmで時期不明水田跡確認
16-42	八幡遺跡群六反田遺跡	八幡	公共=道路改良	千曲市(建設課)	16.12.14	掘削-70cm 遺構遺物なし
16-43	八幡遺跡群横まくり遺跡	八幡	公共=道路改良	千曲市(建設課)	16.12.14	掘削-70cm 遺構遺物なし
16-44	栗佐遺跡群	板堂	民間=工場増築	日本デルモンテ㈱	16.12.15	掘削-220cm 遺構、遺物なし
16-45	柏玉遺跡	戸倉	公共=道路舗装復旧	千曲市(建設課)	16.12.15	掘削なし
16-46	歴代城跡	小島	公共=道路改良	千曲市(建設課)	17.1.7	掘削-100cm 遺構、遺物なし
16-47	土口北山古墳群	土口	民間=宅地造成	更埴建設㈱	17.1.12	掘削-40cm 遺構、遺物なし
16-48	漆原遺跡	新山	公共=防火水槽	千曲市(消防防災課)	17.1.18	掘削-200cm 遺構、遺物なし
16-49	生萱水田址	生萱	公共=水路改修	千曲市(農林課)	17.1.19	掘削-150cm 遺構、遺物なし
16-50	松田館跡	八幡	公共=道路改良	千曲市(建設課)	17.2.18	掘削-70cm 遺構、遺物なし
16-51	八幡遺跡群六反田遺跡	八幡	公共=下水路工事	千曲川流域下水道建設事務所	17.3.7	掘削-150cm 遺構、遺物なし

* 表中の番号は、第1図及び第2図中の調査位置を示した番号と一致する。



第1圖 調査地位置圖① (1 : 40,000)



第2图 調査地位位置图② (1 : 40,000)

発掘調査

(1) 八幡遺跡群 六反田遺跡

I 調査の概要

- | | |
|----------|---|
| 1 調査遺跡名 | 八幡遺跡群六反田遺跡 (千曲市遺跡台帳№85-9 調査記号 RTD) |
| 2 所在地 | 千曲市大字八幡字志川2395番地1 |
| 3 土地所有者 | 千曲市長 宮坂博敏 |
| 4 調査原因 | 志川公民館防火水槽建設工事 |
| 5 事業者 | 千曲市長 宮坂博敏 (千曲市総務部消防防災課) |
| 6 調査の内容 | 発掘調査 30㎡ |
| 7 調査期間 | 発掘調査 平成16年2月10日～平成16年2月17日
整理調査 平成16年3月1日～平成16年3月31日 |
| 8 調査費用 | 359,712円 |
| 9 調査主体者 | 千曲市教育委員会 |
| 調査担当者 | 小野紀男 |
| 調査参加者 | 北澤三枝子・国光一徳・高野貞子・中村文恵・宮崎恵子 |
| 10 種別・時期 | 集落跡 弥生時代後期～平安時代 |
| 11 検出遺構 | 住居跡5棟・土坑3基・溝跡1基 |
| 12 出土遺物 | 土器片等 弥生時代～平安時代 コンテナ2箱 |



第3図 調査位置図 (1:5,000)

調査経過

千曲市消防防災課より、志川公民館の敷地内に新たに防火水槽建設の照会があった。

当該地は六反田遺跡の範囲内にあるため、工事により埋蔵文化財が破壊される恐れがあることから遺跡の保護に係る協議を行い、平成16年1月30日、文化財保護法第57条に基づく通知が提出され、発掘調査が必要な旨、回答を行った。

発掘調査は2月10日から開始し、2月17日に現場におけるすべての作業を終了した。

II 遺跡の環境

八幡遺跡群は聖山を水源とする佐野川の南城一帯に広がる、南北約1.3km、東西約1kmに展開する遺跡群で、佐野川によって形成された扇状地に立地している。

この八幡遺跡群内を国道18号バイパス（坂城更埴バイパス）が縦断しており、長野県埋蔵文化財センターによって発掘調査されているがその調査成果を見るに、遺跡群と冠しているものの遺跡は疎らに存在していて必ずしも密なあり方とはいえない状況である。これは当該地が扇状地特有の起伏に富んだ地形をなしているものとみられ、微高地と低地とが筋状に形成されており、微高地上に集落を展開させている状況が看取できる。

六反田遺跡は八幡遺跡群の北東端の微高地上に立地する遺跡で、佐野川扇状地の扇端部に位置している。弥生時代から平安時代の集落跡として古くから周知されており、過去に多くの土器が表面採取されているが遺跡の状況については不明な部分が多い。

周辺の遺跡に目を転じてみると、六反田遺跡の南に隣接する横まくり遺跡では、暗渠水路建設の掘削時に地表下40cm程から平安時代の住居跡が検出されており、灰釉陶器などの遺物が多量に出土している。また、昭和45年度に団地造成工事に伴い実施された青木遺跡の発掘調査では、平安時代の住居跡や掘立柱建物跡が検出されている。なお青木遺跡では古代瓦や瓦塔片など寺院関連の遺物が表面採取されている。

III 遺構と遺物

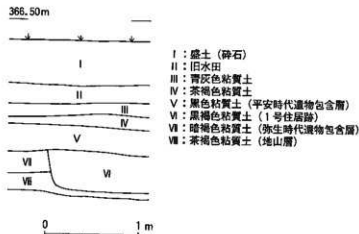
基本層序

第4図に土層断面図を示した。

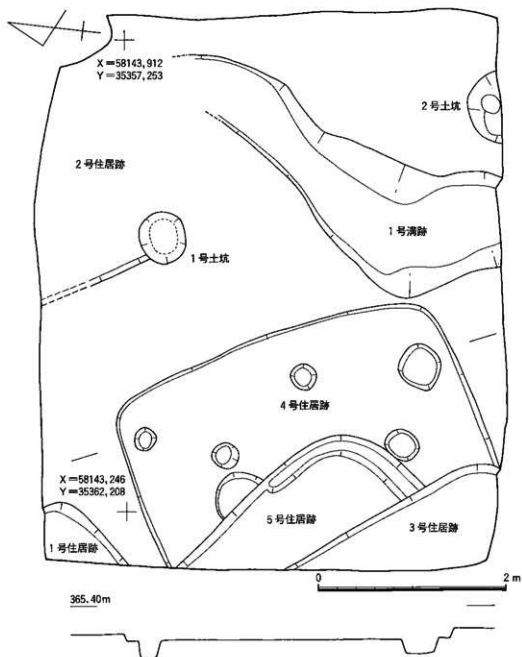
現地表面から50cmの深さに旧水田があり、その間は碎石で盛土をされている。

地表下90cmで厚さ30cmの黒色粘質土が確認され、平安時代の遺物が包含されている。その下には厚さ20cmの弥生時代遺物包含層があり暗褐色の粘質土となる。

遺構確認面とした茶褐色粘質土（地山）は地表下140cmで確認される。



第4図 基本層序（1：40）



第5図 調査区全体図 (1:40)

1号住居跡

調査区の北西隅に検出された遺構であるが、調査範囲内において一部しか調査できていない。四化できた土器はないが、その様相から平安時代の住居跡と考える。

出土遺物は僅かで、須恵器の坏と土師器の甕のそれぞれ破片が出土しているのみである。

2号住居跡

調査区北東に検出された住居跡で、西壁の一部や床面は明瞭に検出できたものの、住居の大半が擾乱を受けており規模や平面形態などは判然としない。1号土坑と重複関係にあり西壁を破壊される。

出土遺物には壺(1・20)と甕(21)があり、その様相から弥生時代後期初頭の住居跡である。

1は頸部に篋描きによる文様が施文される。横線により区画したのち斜めに交差させる文様を配し、

その下部に編歯文が施文される。胴部は部分的に縦方向のヘラミガキが施されている場所が見られるが、内面は器面の荒れが著しく表面の剥離が目立つ。21は壺の頸部破片で1と同一個体と考えられる。22は柳播波状文を施文する壺の胴部破片である。

3号住居跡

調査区の南西隅で検出された住居跡で、4号住居跡及び5号住居跡と重複関係にあり、切り合い関係からこの3棟の中では最も新しい住居跡で、古い順に4号住居→5号住居→3号住居となる。

検出できたのは東壁と南東隅付近であり規模や平面形態は不明。柱穴などの内部施設も確認できていないが、出土土器の様相から弥生時代後期初頭の住居跡と判断する。

出土遺物には壺(2・22)と甕(3・23)がある。

2は壺の頸部から胴部にかけての破片である。頸部に羽状もしくは斜線の篋指文を施し、その下部に編歯文を施文する。胴部には赤彩が施される。3は甕の底部破片で、外面にはハケ調整、内面は丁寧なヘラミガキが施される。23は甕の頸部から胴部にかけての破片で、器面が荒れており不明であるが、乱雑な柳播波状文が施文されている。

4号住居跡

今回の調査においてももっとも明瞭に検出できた住居跡で、出土土器の様相から弥生時代後期初頭の住居跡である。

南北方向3.5mを測る隅丸長方形を呈し、主軸方向は東西方向となると考えられる。柱穴は6基確認されているが不規則である。炉は確認されていない。

出土遺物には壺(4-7・11・24)、甕(10・25)、高坏(8)がある。

4は頸部破片で柳播直線文に篋により区画を行うT字文となる。5の頸部には柳播直線文が施文され、その下部に鋸歯文が施文される。口縁部と胴部は縦方向のヘラミガキが施される。6は頸部に2本の篋指直線文を施文した後、やや雑な篋指羽状文が施文されているが鋸歯文は施文されない。7の頸部にはかなり乱雑な斜線が交差する形で施文されており、口縁部にはハケ調整が見られる。口縁部内面は赤彩され、横方向のヘラミガキがされている。8は内外面ともに赤彩された高坏の坏部で、口縁端部が欠損しているものの口縁部が僅かに外反する器形となる。

5号住居跡

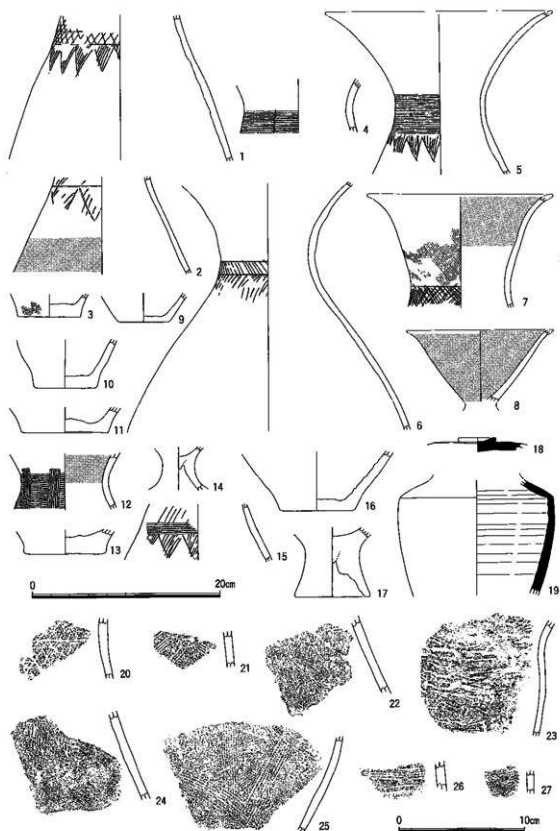
3号及び4号住居跡と重複関係にある。南壁の一部を3号住居跡に破壊され、残りは調査区域外となるため規模については不明であるが、隅丸長方形を呈する弥生時代後期初頭の住居跡と思われる。南東隅から南壁にかけて壁溝が確認されているが、柱穴等の内部施設は検出されていない。

出土遺物には壺(11)と甕(26・27)がある。11は壺の底部破片で、表面が著しく荒れており調整等は不明である。26は頸部破片で篋状文が施文され、27は波状文が施文されている胴部破片である。

その他の遺構と遺物

1号土坑は直径60cm弱の円形を呈し、2号住居跡を破壊して構築されている。12は壺の頸部で、6本単位の櫛状工具によりT字文を施文し、口縁部内面は赤色塗彩される。14は台付甕の脚部破片である。2号土坑は調査区南東隅に検出され、半分ほどが調査区域外となるため判然としませんが、直径78cmの円形土坑を想定する。内部からは壺の頸部破片(15)が出土している。

また、遺構に伴うものではないが、須恵器の壺(18)と壺(19)が、1号住居跡付近からの出土している。



第6図 六反田遺跡出土遺物 (1~19 1:4 20~27 1:3)
 2号住居跡 (1・20・21) 3号住居跡 (2・3・22・23) 4号住居跡 (4~10・24・25)
 5号住居跡 (11・26・27) 1号土坑 (12~14) 2号土坑 (15) 遺構外 (16~19)

Ⅳ まとめ

今回の調査は防火水槽の建設工事のため狭い範囲での調査に終始したが、特筆すべきは弥生時代後期初頭「吉田式期」の集落跡が確認されたことである。

更埴地域では石糸条里遺跡群築師堂遺跡で吉田式期の住居跡が1棟調査されている以外、いくつかの遺跡で僅かな破片資料が出土しているだけであり、住居跡とともにこれだけまとまった量の吉田式土器が出土したのは今回が初めてとなる。

出土した土器は湧水や土質等の影響から大変に脆く、文様や調整・整形などを詳細に観察できた土器は少なかったが、ここでは比較的多くの資料を得ることのできた壺の頸部に描かれた文様について触れておくこととする。

吉田式土器の壺の文様の最大の特徴といえば、篋状の工具を用いて描かれた細い線の文様“篋描文”であり、その多くは篋描文との組み合わせによるものであるが、篋描文のみで構成されるものも少なくない。また篋描あるいは篋描による横帯文に付加される形で施文される篋描鋸歯文も普遍的にみることができる吉田式土器特有の文様である。

篋描文は主に直線の横線文として用いられ、篋描による区画を行うT字文（第6図4）と直線文のみを施文するもの（第6図5）に大別される。このほか、今回の調査では出土していないが、簾状文や波状文を施文するパターンも存在する。一方、篋描文のみで構成される文様構成は基本的に横方向への区画を行ったのち、その間を羽状文で埋めるパターン（第6図6）が主文様となるが、今回の調査において区画間に斜線を格子状に交差させて埋める文様（第6図1・7）がみられた。

この斜線を交差させた文様を仮に“斜格子文”と呼ぶこととするが、この斜格子文はこれまで明らかとなっている吉田式土器の文様形態にはみられないもので、先行する栗林式土器から承継が求められるものでもなく、また後続する箱清水式土器に継承されていることもない。

吉田式土器の新たな文様構成の一つとして捉えられるものなのか、地域性によるものなのか、あるいは外部から取り入れられた文様要素なのか判断できないが、この斜格子文は当該遺跡の吉田式土器の壺の文様形態の一つの特徴と言える。

吉田式土器については未だ不鮮明な点が多いのも事実であるが、平成11年度に長野市埋蔵文化財センターにより実施された長野吉田高校グラウンド遺跡の第4次調査に代表されるようにここ数年着実に資料の蓄積はされてきており、福年研究も今後活発になってくるものと予想される。

今回の調査は範囲が狭かったため判然としない点が多く、集落規模や住居重視により生じている時間的差異など、今後解決していかなければならない問題点は多いものの、これまで空白であった更埴地域で吉田式期集落が検出された意義は大変に大きい。

最後に、調査実施にあたり関係された諸氏に御礼申し上げ、まとめとする。

参考文献

- 長野県更埴市大字八幡青木遺跡発掘調査報告 1972 更埴市教育委員会
- 更埴市史 第一巻 古代・中世編 1994 更埴市史編纂委員会
- 長野吉田高校グラウンド遺跡Ⅱ 2001 長野市教育委員会



調査区全景（北より）



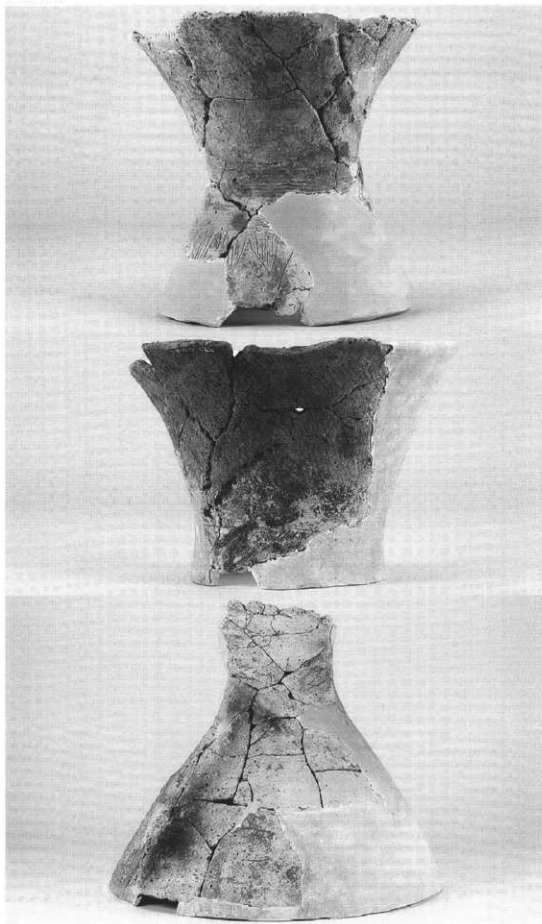
4号住居跡検出状況



4号住居跡遺物出土状況



5号住居跡検出状況



(2) 五量眼塚古墳・堂平大塚古墳

I 調査の概要

1 調査遺跡名	五量眼塚古墳 (千曲市遺跡台帳No42 調査記号 GRK) 堂平大塚古墳 (千曲市遺跡台帳No43 調査記号 DDK)
2 所在地	千曲市大字土口字芝山・堂平
3 土地所有者	個人
4 調査原因	学術調査
5 事業者	千曲市教育委員会生涯学習課 (森将軍塚古墳館)
6 調査の内容	発掘調査 (トレンチ調査) 100㎡
7 調査期間	発掘調査 平成15年8月26日～平成15年9月13日
8 調査費用	3,004,847円
9 調査主体者	千曲市教育委員会
調査指導	岩崎卓也 元筑波大学教授 木下正史 東京学芸大学教授
調査担当者	佐藤信之
10 種別・時期	古墳 古墳時代
11 検出遺構	五量眼塚古墳 墓壇 造り出し 堂平大塚古墳 横穴式石室
12 出土遺物	土器片
13 調査報告書	平成18年度刊行予定

II 調査の所見

五量眼塚古墳

直径約38mの円墳で、南東部に造り出しがあることが確認された。主体部は盗掘により既に破壊を受けており確認できなかったが、墓壇の掘り込みが検出され、堅穴式石室であった可能性が高い。出土遺物から5世紀代の古墳と思われる。

隣接する2号墳にもトレンチを設定し、調査を行った結果、古墳ではないことが確認された。出土遺物がないため詳細は不明であるが、中世の遺構と思われる。

堂平大塚古墳

墳丘の測量調査により直径18m前後の円墳で、残存する高さは最大4.8mを持つ。主体部は南に開口する両袖胴張りの横穴式石室で、規模は全長8.5m、玄室の長さは4.3mを測る。幅は中央部付近の床面で3m、天井で1.5m、高さは3m前後と思われる。奥壁は下部に一枚石を設置し、上部に厚さ25cm程の平石を4～5段積んでいるが、崩落が進んでいる。側壁は厚さ50cm程の石を4～5段積んでいる。玄門は方柱の石を両側に立て、榿石とマグサ石を水平に据えており、高さは1.5mを測る。羨道は4.2mが残存しており、玄室に比べ小型の石で構築されている。



五量眼塚古墳 墓室検出状況



五量眼塚古墳 造り出し部検出状況



堂平大塚古墳 全景

(3) 更埴条里水田址 七ツ石地点

I 調査の概要

1 調査遺跡名	更埴 条里水田址七ツ石地点 (千曲市遺跡台帳№29 調査記号 NIT・NTI2)
2 所在地	平成15年度 千曲市大字屋代字七ツ石39番地 6 ほか 平成16年度 千曲市大字屋代字七ツ石37番地 1 ほか
3 土地所有者	長野県千曲建設事務所
4 調査原因	平成15年度 県単(一般県道白石千曲線)道路改良事業 平成16年度 県単道路改良事業(一)白石千曲線 千曲市屋代(2)
5 事業者	千曲建設事務所長(千曲市大字屋代1881番地)
6 調査の内容	平成15年度 発掘調査 550㎡ 平成16年度 発掘調査 100㎡
7 調査期間	平成15年度 発掘調査 平成15年11月4日～平成15年12月9日 整理調査 平成15年12月11日～平成16年3月10日 平成16年度 発掘調査 平成16年11月9日～平成16年11月14日 整理調査 平成16年12月1日～平成17年3月10日
8 調査費用	平成15年度 3,000,000円 平成16年度 600,000円
9 調査主体者	千曲市教育委員会
調査担当者	寺島孝典(平成15年度) 小野紀男(平成16年度)
調査参加者	北澤三枝子・国光一穂・北島弘之・斉藤善久・清水嘉裕・高野貞子・中村文恵 宮崎恵子・宮島高一・柳沢君雄・吉田忠治・米沢須美子
10 種別・時期	集落跡 弥生時代中期・古墳時代中期 水田跡 平安時代
11 検出遺構	平成15年度 住居跡1棟・掘立柱建物跡1棟・溝跡7基・土坑23基 ピット123基・畦畔1条 平成16年度 住居跡1棟・土坑2基・溝跡1基・ピット6基
12 出土遺物	弥生時代～平安時代土器片・石器等 コンテナ3箱(平成15・16年度合計)
13 調査報告書	「更埴条里水田址七ツ石地点」平成16年3月刊行 「更埴条里水田址七ツ石地点2・栗佐遺跡群宮裏遺跡Ⅱ」平成17年3月刊行

II 調査の所見

平成15年度の調査は、県道白石千曲線の拡幅工事と、併せて長野県立歴史館への進入路の改良工事を含むもので、550㎡の調査を行った。調査では弥生時代中期後半の住居跡はか多くの遺構が検出されているが、特に、方形に区画された一辺5m弱の溝跡は、内部から多くの遺物が出土しており、その様相から弥生時代中期後半の方形周溝墓となる可能性が考えられる。

平成16年度の調査は、前年度実施した県道白石千曲線拡幅工事の継続調査となるものである。

検出された住居跡は上部が削平されており住居形態など判然としない部分が多いが、周囲から出土した遺物の様相から弥生時代中期後半の住居跡で、柱穴の配置などから円形を呈する住居と思われる。

(4) 町裏遺跡

I 調査の概要

1 調査遺跡名	町裏遺跡 (千曲市遺跡台帳No123 調査記号 MCU・MCU2)
2 所在地	千曲市大字桑原字金井1160番地1 ほか
3 土地所有者	千曲市長 宮坂博敏
4 調査原因	ふるさと農道桑原中道線道路改良工事
5 事業者	千曲市長 宮坂博敏 (千曲市建設部建設課)
6 調査の内容	平成15年度 発掘調査 96㎡ 平成16年度 発掘調査 170㎡
7 調査期間	平成15年度 発掘調査 平成16年3月15日～平成16年3月24日 平成16年度 発掘調査 平成16年4月12日～平成16年4月30日
8 調査費用	平成15年度 304,425円 平成16年度 814,793円
9 調査主体者	千曲市教育委員会
調査担当者	寺島孝典
調査参加者	荒井金治・北澤三枝子・国光一穂・高野貞子・田仲和幸・中村勇夫・中村文恵 町田秀吉・宮崎恵子・宮沢俊雄・米沢須美子
10 種別・時期	集落跡 奈良時代～平安時代
11 検出遺構	平成15年度 住居跡1棟・土坑2基・溝状遺構1基 平成16年度 住居跡4棟・土坑2基
12 出土遺物	縄文時代石器 奈良時代～平安時代土器片 コンテナ2箱 (平成15・16年度合計)
13 調査報告書	平成18年度刊行予定

II 調査の所見

町裏遺跡は、奈良時代から平安時代の集落跡として周知されているが、これまで周辺において開発事業がなかったことから、埋蔵文化財の包蔵状況は判然としなかった。そこで、事業に先立って試掘調査を行ったところ、地表下80cm程から遺物包含層が確認され、平安時代の須恵器の甕が出土したことから、事業予定地内全域に遺跡が存在していることが明らかとなった。

工事は現道の拡幅が主体となるものであるが、現道下も改良を行うということで調査の対象とした。現在、当該地周辺は果樹園で、現道が作業用道路となっているため農閑期内でしか調査できないため、複数年にわたっての調査となった。

平成15年度調査は遺跡の南端に位置し、奈良時代の住居跡などを検出している。

平成16年度調査は15年度調査箇所に関連する地点で、奈良時代から平安時代の住居跡4棟などを検出している。

調査は平成17年度以降も継続して実施し、平成18年度が事業最終年度となる予定である。

(5) 屋代遺跡群 荒井遺跡

I 調査の概要

1 調査遺跡名	屋代遺跡群荒井遺跡 (千曲市遺跡台帳No31-5 調査記号 AR15)
2 所在地	千曲市大字屋代字荒井1205番地 ほか
3 土地所有者	長野電子工業株式会社 代表取締役社長 市川和成
4 調査原因	長野電子工業株式会社回収純水棟建設工事
5 事業者	長野電子工業株式会社 代表取締役社長 市川和成
6 調査の内容	発掘調査 80㎡
7 調査期間	発掘調査 平成16年4月15日～平成16年5月6日 整理調査 平成16年6月1日～平成17年3月31日
8 調査費用	1,000,000円
9 調査主体者	千曲市教育委員会
調査担当者	小野紀男
調査参加者	北澤三枝子・小宮山重信・清水嘉裕・寺澤七郎・柳沢君雄・吉田忠治・米沢須美子
10 種別・時期	集落跡 弥生時代中期～中世
11 検出遺構	住居跡2棟・土坑2基・溝跡1基
12 出土遺物	土器片・石器等 弥生時代～中世 コンテナ3箱
13 調査報告書	「屋代遺跡群荒井遺跡5」平成17年3月刊行

II 調査の所見

荒井遺跡は、千曲川の氾濫によって形成された自然堤防上に立地する屋代遺跡群に包括されており、屋代遺跡群内の北西端の縁辺部に位置している。

過去4箇所の発掘調査を実施しており、大埴式土器を含む弥生時代中期前半の住居跡をはじめ、中世居館址と思われる幅5mの堀跡など、弥生時代から中世までの長期間にわたって居住域として利用されている。

今回の調査は、長野電子工業㈱の工場増築に伴って実施されたもので、狭い範囲の調査ではあったが多くの遺構が検出されている。

1号住居跡は弥生時代中期後半の直径4.5mを測る円形住居で、検出面から床面までの深さが10cm前後と浅かったものの、床面や炉、柱穴等が良好に検出され、特に炉は住居中央に構築され、直径80cmの歪な円形を呈し、深さは床面から25cmの掘り込み炉となり、内部には炭化物や焼土塊が含まれていた。この炉のほか2箇所に地床炉が検出されている。

覆土内から多くの土器とともに石器剥片が多量に出土している。石材はほとんどが頁岩であり、他に黒曜石が少量見られる。

石器剥片とともに出土した土器は、二次的被熱により変質した土器で、当該住居と直接関係を持つものではなく、住居埋没過程の窪地にこれらを廃棄したものと見られる。

(6) 杉山古墳群

I 調査の概要

1 調査遺跡名	杉山古墳群 (千曲市遺跡台帳No 5 調査記号 SGK)
2 所在地	千曲市大学倉科字杉山
3 土地所有者	個人
4 調査原因	学術調査
5 事業者	千曲市教育委員会生涯学習課 (森将軍塚古墳館)
6 調査の内容	発掘調査 100㎡
7 調査期間	発掘調査 平成16年8月26日～平成16年9月14日
8 調査費用	3,018,876円
9 調査主体者	千曲市教育委員会
調査指導	岩崎卓也 元筑波大学教授 木下正史 東京学芸大学教授
調査担当者	佐藤信之
調査参加者	東京学芸大学大学院生・学生
10 種別・時期	古墳 古墳時代
11 検出遺構	横穴式石室・竪穴式石室・石棺状埋葬施設
12 出土遺物	土器片
13 調査報告書	平成18年度刊行予定

II 調査の所見

調査した古墳は、いずれも周辺に点在する石英閃緑岩で構築された古墳で、直径10m前後の規模を測ることができる。

A古墳は南に開口する横穴式石室で、羨道部がハの字状に開くと思われるが、破壊が進んでおり不明な点が多い。

B・F・G古墳は竪穴式石室で、石英閃緑岩を小口積みにして構築している。

B古墳は良好な状態で主体部が残っており、長さ2.4m、幅0.8m、深さ0.8mを測ることができたが、2基接して造られているF・G古墳は破壊が進んでおり、主体部の規模も明確に確認することができなかった。

なお、G古墳の裾からは、平石を組み合わせた石棺状の埋葬施設が1基確認されている。

出土遺物が少なく明確ではないが、G古墳の構築は5世紀中頃と考えられ、谷の奥(北側)から入り口(南側)に進むにしたがって時代が新しくなると思われる。

調査は平成17年度以降も継続して行い、平成18年度調査報告書を刊行する予定である。



杉山古墳群 A 古墳石室



杉山古墳群 E 古墳全景

(7) 東條遺跡

I 調査の概要

1	調査遺跡名	<small>ひがしとうじょう</small> 東條遺跡(千曲市遺跡台帳№118 調査記号 HGJ)
2	所在地	千曲市大字八幡字東條3928番地8 ほか
3	土地所有者	千曲市土地開発公社
4	調査原因	国道18号バイパス代替地(上町団地)建設工事
5	事業者	千曲市長 宮坂博敏(千曲市建設部建設課)
6	調査の内容	発掘調査 433㎡
7	調査期間	発掘調査 平成16年9月29日～平成16年11月26日 整理調査 平成16年12月1日～平成17年3月31日
8	調査費用	5,199,724円
9	調査主体者	千曲市教育委員会
	調査担当者	寺島孝典
	調査参加者	今井せつ子・落合孝市・高野貞子・中村文恵・西野入金己・日詰利貞・米沢須美子
10	種別・時期	集落跡 古墳時代～平安時代 水田跡 中世
11	検出遺構	住居跡5棟・土坑6基・溝跡1基・ピット9基・畦畔
12	出土遺物	土器片等 古墳時代～中世 コンテナ8箱
13	調査報告書	平成17年度刊行予定

II 調査の所見

東條遺跡は、弥生時代から平安時代の集落遺跡として周知されている。

国道18号バイパス(坂城更埴バイパス)建設工事に伴う発掘調査が平成14年度より長野県埋蔵文化財センターにて実施されており、古墳時代から平安時代の集落跡が調査されている。

今回の調査は、この国道18号バイパスの計画路線内となってしまった家屋の代替地として、上町団地が建設されることとなり、宅地部分は造成によるため調査の対象とはせず、バイパスに接続される新規道路建設部分のみを保護対象とした。

道路は宅地を囲むように建設されるため平面形はL字を呈し、工事工程の関係から角部分で調査区を分断することとなったため、便宜的に南調査区と北調査区とに分けて調査を行った。

南調査区は遺跡の南を流れる兎沢川沿いの傾斜地にあたり、最上部と最下部の比高差は4mを測る。南調査区では中世の水田跡が検出されたが、地表面から浅かったため、ほとんどが破壊を受けている状態であった。その他の時代の遺構は確認できなかった。

北調査区はバイパス隣接地となり、多くの遺構遺物が検出されている。平安時代の住居跡1棟と古墳時代の住居跡4棟のほか、土坑、溝跡などが検出されている。古墳時代後期の住居跡である3号住居跡からは多くの礫とともに土器が出土し、滑石製の玉が1点出土している。

調査報告書は平成17年度刊行予定である。

(8) 粟佐遺跡群 琵琶島遺跡

I 調査の概要

1 調査遺跡名	粟佐遺跡群琵琶島遺跡 (千曲市遺跡台帳No.28-16 調査記号 BWJ2)
2 所在地	千曲市大字小島3151番地 ほか
3 土地所有者	千曲建設事務所長
4 調査原因	平成16年度 地方道路交付金(街路)事業
5 事業者	千曲建設事務所長(千曲市大字風代1881番地)
6 調査の内容	発掘調査 105㎡
7 調査期間	発掘調査 平成16年12月13日～平成16年12月16日 整理調査 平成17年1月4日～平成17年3月25日
8 調査費用	420,000円
9 調査主体者	千曲市教育委員会
調査担当者	寺島孝典
調査参加者	落合孝市・北島弘之・高野貞子・西野入金己・宮崎繁敷・吉田忠治・米沢須美子
10 種別・時期	集落跡 奈良時代～平安時代
11 検出遺構	住居跡1棟・土坑1基
12 出土遺物	土器片 コンテナ1箱
13 調査報告書	事業最終年度刊行予定

II 調査の所見

当該事業は、しなの鉄道歴代駅前の県道白石千曲線の拡幅工事であり、立ち退きあるいは家屋移動が完了して一定の面積が確保できた部分から調査を行う、複数年次に及ぶもので、平成16年度から開始された。

粟佐遺跡群は、千曲川によって形成された自然堤防上に立地し、東西約800m、南北1,200mを測る広大な遺跡群である。

琵琶島遺跡は平安時代の集落跡として周知されている遺跡で、粟佐遺跡群の南端に位置する。

調査地は、県道白石千曲線の西側の拡幅工区で、ホテルルートイン更埴北からスワ帽子店の間であるが、当該地は古くから住宅地あるいは商業地として発展してきたところであり、近世には北国街道として栄えた交通の要所でもある。

調査は僅か幅2mほどのトレンチ調査であり、遺跡の全体像を把握するには程遠い面積の調査であった。また調査区のほとんどが既に破壊を受けた状態であったため、調査できた範囲は105㎡に過ぎず、検出された遺構は平安時代の住居跡が1棟と土坑が1基のみである。

住居跡は調査区の南端で検出され、調査範囲が限られていたためカマドなど内部施設は確認されていない。内部からは須臾器及び土師器の破片が出土している。

土坑は遺構検出面から僅か10cm程の掘り込みであったが、土師器の甕が出土している。

(9) 粟佐遺跡群 宮裏遺跡

I 調査の概要

1 調査遺跡名	粟佐遺跡群宮裏遺跡 (千曲市遺跡台帳No28-13	調査記号 MYU II)
2 所在地	千曲市大字屋代字本町1858番地 2	
3 土地所有者	千曲建設事務所長	
4 調査原因	平成16年度 県単街路事業 3.4.4 旧国道線 千曲市屋代 (須須岐水神社前)	
5 事業者	千曲建設事務所長 (千曲市大字屋代1881番地)	
6 調査の内容	発掘調査	32㎡
7 調査期間	発掘調査	平成16年12月20日～平成16年12月22日
	整理調査	平成17年1月4日～平成17年3月10日
8 調査費用	600,000円	
9 調査主体者	千曲市教育委員会	
	調査担当者	寺島孝典
	調査参加者	高野貞子・西野入金己・吉田忠治・米沢須美子
10 種別・時期	集落跡 中世・近世	
11 検出遺構	竪穴遺構 1基・溝跡 1基・火床跡 2基	
12 出土遺物	土器片・陶器片・磁器片・銭・カンザシ 古墳時代～江戸時代 コンテナ 1箱	
13 調査報告書	「更埴条里水田址セツ石地点2・粟佐遺跡群宮裏遺跡II」平成17年3月刊行	

II 調査の所見

宮裏遺跡は弥生時代から平安時代の集落跡として周知されているが、平成5年度及び6年度に実施された長野県更埴建設事務所（現長野県千曲建設事務所）建設工事の際の発掘調査で、平安時代住居跡2棟と中世土坑墓などを検出している。

今回の調査地点は、粟佐遺跡群の北端に位置し、近世には北国街道の矢代宿がおかれた近隣地となる。元来、須須岐水神社の境内に当たり、玉垣や土蔵が建設されていた場所である。

調査は鳥居を挟んで左右に分かれているが、参拝客への配慮から鳥居前部分については調査対象とはせず、東調査区と西調査区とに分割して調査を行った。

東調査区は表土掘削を開始してすぐにコンクリート塊や鉄くずなど、整地する際に埋められたと見られる建築廃材が多量に出土し、既に遺跡は破壊されている状態であったため、東調査区の調査はこれで終了した。

西調査区は以前土蔵等が建設されていた場所であるが、竪穴遺構や溝跡などが検出された。

竪穴遺構は不整形な方形を呈し、底面は凸凹している。内部から内耳銅片と常滑焼の摺鉢が出土している。

溝跡は幅70cm程で南北に掘られており、内部から唐津焼の碗が出土している。

この他、火床跡が2ヶ所確認され、近くから寛永通宝1枚と銅製のカンザシが1点出土している。

いずれも中世から近世にかけての遺構であると判断する。

報告書抄録

ふりがな	へいせい15・16ねんど ちくしまいざうぶんかざいちようさほうこくしよ							
書名	平成15・16年度 千曲市埋蔵文化財調査報告書							
副書名								
編著者名	守島孝典 佐藤信之							
編集機関	千曲市教育委員会 生涯学習課 文化財係							
所在地	〒389-0892 長野県千曲市大字戸倉2388番地 TEL 026-275-0004							
発行年月日	2006年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 °'〃	東経 °'〃	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
八幡遺跡群 六反田遺跡	長野県千曲市 大字八幡字志 川2395番地1	20218	85-9	36 31 24	138 6 18	20040210 ～ 20040217	30㎡	防火水槽 建設工事
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
八幡遺跡群 六反田遺跡	集落跡	弥生時代 平安時代	住居跡 土坑 溝跡	5棟 2基 1基	弥生時代後期土器 平安時代土器	弥生時代後期初頭の 集落跡を検出した		

平成15・16年度 千曲市埋蔵文化財調査報告書

発行日 平成18年3月31日
 発行 千曲市教育委員会
 〒398-0892 長野県千曲市大字戸倉2388番地
 電話 (026)275-0004
 印刷 信毎書籍印刷株式会社
 〒381-0037 長野県長野市西和田470
 電話 (026)243-2105

